

[成果情報名] 長崎県のアスパラガスに寄生および加害するアザミウマの種

[要約] 本県の半促成長期どり栽培のアスパラガスには、主にネギアザミウマ、ヒラズハナアザミウマおよびミカンキイロアザミウマの3種が寄生する。このうち、加害種として重要と考えられるのはネギアザミウマである。

[キーワード] アスパラガス、半促成長期どり栽培、ネギアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ

[担当] 総合農林試験場・環境部・病害虫科

[連絡先] 電話0957-26-3330、電子メールyogawa@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 野菜（生産環境）

[分類] 指導

[背景・ねらい]

近年、本県のアスパラガス生産においては、半促成長期どり栽培が導入され、生産量が著しく増加してきた。しかし、長期間雨よけ栽培をすることなどから、アザミウマ類の発生が顕在化し、安定生産を阻害する大きな要因の一つになっている。また、アザミウマ類の防除にあたっては、発生種によって薬剤感受性などが異なることから、効率的な防除を行うにはその種を明らかにすることが重要である。アスパラガスを加害するアザミウマの種は、関西地域の雨よけ栽培ではネギアザミウマが優占する（清水ら、1994）とされているが、九州地域、さらに本県の作型におけるアザミウマの寄生種および加害種は明らかになっていない。

そこで、県内主産地のアスパラガスに寄生するアザミウマ類を採集するとともに季節推移を調査して、本県における主な寄生種および加害種を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 県内のアスパラガスから5種のアザミウマ成虫が認められ、うち主な寄生種と考えられるのはネギアザミウマ、ヒラズハナアザミウマおよびミカンキイロアザミウマの3種である（表1）。
2. 栽培期間を通して成虫が採集されるのはネギアザミウマだけである。開花期の調査では、ヒラズハナアザミウマ成虫はほとんど花から採集される（表2、3）。
3. 以上より、本県のアスパラガスにおいて重要な加害種と考えられるのは、ネギアザミウマである。

[成果の活用面・留意点]

1. 種の構成比には若干の地域間差はあるものの、概ね県下全域に適用できる。

[具体的データ]

表1 長崎県内のアスパラガス圃場から採集されたアザミウマ成虫の種およびその構成比

種名	ネギ アザミウマ	ヒラズハナ アザミウマ	ハナ アザミウマ	ミカンキイロ アザミウマ	ビワハナ アザミウマ	その他 (未同定)
圃場数	35	9	4	2	1	2
圃場率(%)	100	25.7	11.4	5.7	2.9	5.7
個体数(頭)	1320	11	5	72	1	4
構成比 (個体数/全調査個体数, %)	93.4	0.8	0.4	5.1	0.1	0.3
(圃場毎構成比の平均, %)	95.5	0.8	0.3	3.4	0.04	0.1

調査年次:2003,2004年

調査地点:長崎地域2圃場, 県央地域10圃場, 島原地域10圃場, 県北地域7圃場,
五島地域1圃場, 壱岐地域2圃場, 対馬地域3圃場 計35圃場

表2 場内アスパラガス圃場におけるアザミウマ成虫の種構成の推移

調査部位等	種名ほか	成虫数または構成比						
		4/9	5/6	6/13	7/12	8/13	9/27	11/2
成茎	調査個体数	-	154 頭	194 頭	678 頭	321 頭	163 頭	19 頭
	ネギアザミウマ	-	96.8 %	99.9 %	99.9 %	100 %	100 %	100 %
	ヒラズハナアザミウマ	-	2.6 %	1.0 %	0.1 %	0 %	0 %	0 %
	ハナアザミウマ	-	1 %	0 %	0 %	0 %	0 %	0 %
	その他(未同定)	-	0 %	0 %	0 %	0 %	0 %	0 %
若茎	調査個体数	19 頭	181 頭	277 頭	109 頭	237 頭	11 頭	-
	ネギアザミウマ	100 %	100 %	100 %	100 %	100 %	100 %	-
	その他(未同定)	0 %	0 %	0 %	0 %	0 %	0 %	-
青色粘着 トラップ	調査個体数	49 頭	25 頭	58 頭	36 頭	49 頭	-	-
	ネギアザミウマ	100 %	88.0 %	91.4 %	86.1 %	98 %	-	-
	ヒラズハナアザミウマ	0 %	12.0 %	5.2 %	8.3 %	0 %	-	-
	ハナアザミウマ	0 %	0 %	1.7 %	0 %	0 %	-	-
	その他(未同定)	0 %	0 %	2 %	6 %	2 %	-	-

調査年次:2004年

表3 アスパラガスの各部位から採集されたアザミウマ成虫

調査部位等	種名ほか	調査数または構成比
擬葉 ¹⁾	調査本数	30本
	調査個体数	42頭
	ネギアザミウマ	100%
	ヒラズハナアザミウマ	0
	その他	0
花	調査花数	200本
	調査個体数	19頭
	ネギアザミウマ	73.7%
	ヒラズハナアザミウマ	26.3
	その他	0

1) 花が着生していない一次分枝

調査日:2004年5月24日

調査場所:県農業大学校内圃場

[その他]

研究課題名:アスパラガス重要病害虫の効率的防除技術確立

予算区分:県単

研究期間:2003~2006年度

研究担当者:小川恭弘、内川敬介